

平成 26 年度 入試センター 自己点検評価報告書

1. 入試センターの概要
2. 学生募集広報
3. 入学試験
4. 大学入試センター試験

平成 27 年 6 月 1 2 日版
富山国際大学 入試センター

1. 入試センターの概要

入試センターは、センター長1名、センター次長1名、参事2名、課長1名、主事2名、各学部の教員による入試対策委員で構成し、以下の事業を展開している。

(1) 学生募集広報に関すること

本学の教育理念・教育目標を踏まえた各学部のアドミッションポリシー（入学者受入方針）を掲げ、学生募集活動を展開するとともに志願者確保、入学定員確保に取り組んでいる。

年間を通してWeb媒体、受験媒体、大学案内など各種学生募集広告業務、県内県外高校訪問による学生募集業務、業者主催進学相談会業務、オープンキャンパス業務、高校教員対象入試説明会業務、学校見学業務などを行っている。

(2) 入学試験に関すること

本学が実施する入学試験の運営に関する業務を行い、出願書類受付業務、入学試験実施業務、合否関係業務を行っている。

平成27年度入学試験では、推薦入試（指定校制、公募制）、AO入試（Ⅰ期、Ⅱ期）、一般入試（前期、後期）、特別奨学生選抜入試（前期、後期）、大学入試センター試験利用型入試（前期、中期、後期）、特別入試（外国人留学生）、海外協定校留学生入試、3年次編入学（3年次編入学、海外協定校3年次編入学、秋季入学）を実施した。

(3) 大学入試センター試験に関すること

大学入試センター試験は、独立行政法人大学入試センターが毎年1月13日以降の最初の土曜日及び翌日の日曜日に実施する全国一斉に行う試験であり、大学入試センター試験を利用する大学が共同で実施している。本学も試験会場となっており、富山短期大学と共同で実施し、平成27年度大学入試センター試験は呉羽キャンパスで実施した。年間を通して準備を行い、試験の運営に関する業務を行っている。

2. 学生募集広報

(担当：上滝)

1. 実績と現状

(1) 高校訪問

富山県内の高校・予備校を対象に年間8回にわたり、学生募集広報活動を行った。

4月からの前半は、教員対象入試説明会参加依頼や推薦入試出願依頼、オープンキャンパス参加依頼などをしながら県内高校の動向を調査・分析し、11月の推薦入試の募集活動に取り組んだ。

12月からの後半は、訪問校を絞り込み、一般入試や特別奨学生選抜入試、大学入試センター試験利用型入試の出願依頼及び動向を調査し、募集活動に取り組んだ。

教員による県内高校訪問は年2回実施した。

県外の高校訪問は新潟県、石川県、福井県、岐阜県、長野県を対象として年3回実施した。

(2) 学生募集イベント

年間を通して7回の学生募集イベントを実施した。内訳は、主に推薦入試志願者をターゲットとした「6月の進学説明会(6月)」、「オープンキャンパスⅠ・Ⅱ・Ⅲ(7・8・10月)」、「推薦入試直前説明会(10月)」、一般入試・特別奨学生選抜入試・大学入試センター試験利用型入試の出願者をターゲットとした「一般入試直前説明会(12月)」、新3年生をターゲットとした「3月進学説明会(3月)」である。イベント毎にターゲットを絞って資料請求者等にDMを送り、参加者の動員を図った。

(3) 業者主催ガイダンス

平成26年度は、富山県内で開催されるガイダンス及び説明会を中心に参加した。

(4) 広告媒体

「受験生・保護者向け広告」、「高校教諭向け広告」、「地域・社会向け広告」に広報を区分し、広報展開した。

(5) 大学案内及び広報紙

資料請求者や進学説明会等で配布する大学案内を5月に発行し、様々な機会をとおして配布をおこなった。

高校訪問時の進路指導部情報提供用として広報紙「TUINS」を年3回発行し、県内県外高校訪問時に大学の学生募集ツールとして活用した。その他に、資料請求者や進学説明会等で配布する「TUINS情報」を作成した。広報紙の見直しを行い、「なるほど情報」の発行を取りやめた。

2. 課題

18歳人口の減少が始まる2018年問題に対応していくことが必要である。

3. 入学試験

1. 実績と現状

(1) 入試結果

平成27年度入学試験は、大学全体では200名定員に対して入学者数210名(入学定員充足率105.0%)と平成26年度入学試験に引き続き(昨年は4年ぶり)に入学定員を確保したが、歩留率は54.8%(平成26年度55.4%)と過去6年間では最も低い歩留まりであった。現代社会学部は入学定員120名に対して入学者数110名(入学定員充足率91.7%)と4年連続の定員割れとなった。子ども育成学部は入学定員80名に対して入学者数101名(入学定員充足率126.3%)と2年連続の定員確保となった。

平成27年度 富山国際大学 入学試験

平成27年4月4日入学式現在

学部	種別	平成27年度入学試験							平成26年度入学試験							
		定員	志願者	受験者	合格者	入学 定員率	入学率	歩留率	入学定員 充足率	定員	志願者	合格者	入学者	歩留率	入学定員 充足率	
現代社会	指定校制	20	17	17	17	17	17	100.0%	20	20	20	20	100.0%	20		
	推薦	公募制(Ⅰ期)	10	12	12	11	11	11	100.0%	5	10	9	9	100.0%		
		一般型(併願)	5	6	6	5	5	2	60.0%	10	11	11	5	45.5%		
		随活動型(併願)	20	17	17	17	16	16	94.1%	20	20	20	20	100.0%		
	公募制(Ⅱ期)	一般型(専願)	若干名	5	5	5	5	5	100.0%	—	—	—	—	—		
		随活動型(専願)	若干名	6	6	6	6	6	100.0%	—	—	—	—	—		
		【小計】	55	63	63	61	60	2	58	95.1%	55	61	60	54	90.0%	
	A O	AO入試(Ⅰ期)	5	2	2	1	1	1	100.0%	5	2	2	2	100.0%		
		AO入試(Ⅱ期)	若干名	1	1	0	0	0	0	若干名	7	5	5	100.0%		
		AO入試(Ⅲ期)(H27試験廃止)	—	—	—	—	—	—	—	若干名	0	0	0	0		
	【小計】	5	3	3	1	1	0	1	100.0%	5	9	7	7	100.0%		
一般・特別奨学・センター	一般入試(前期)	22	47	47	44	24	2	22	50.0%	22	35	31	17	54.8%		
	特別奨学生選抜入試(前期)から一般入試(前期)合格				2	1	1	1	50.0%			2	1	50.0%		
	第二志望一般入試(前期)合格				10	2	2	2	20.0%			11	1	9.1%		
	一般入試(後期)	5	6	6	5	3	3	3	60.0%	5	5	4	2	50.0%		
	特別奨学生選抜入試(後期)から一般入試(後期)合格				1	1	1	1	100.0%			0	0	0		
	特別奨学生選抜入試(前期)	若干名	8	8	6	5	1	4	66.7%	若干名	3	1	0	0.0%		
	特別奨学生選抜入試(後期)	若干名	3	3	2	2	2	2	100.0%	若干名	0	0	0	0		
	センター試験利用型(前期)	25	66	66	63	13	1	12	19.0%	25	57	53	13	24.5%		
	センター試験利用型(中期)	5	6	6	4	3	1	2	50.0%	5	4	3	1	33.3%		
	センター試験利用型(後期)	3	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3	0	0.0%		
		【小計】	60	136	136	137	54	5	49	35.8%	60	107	108	35	32.4%	
	特別	外国人留学生(Ⅰ期)	若干名	3	3	2	2	2	2	100.0%	若干名	1	1	1	100.0%	
		外国人留学生(Ⅱ期)	若干名	3	3	2	2	2	2	100.0%	若干名	6	5	2	40.0%	
社会人(Ⅰ期)		若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0		
社会人(Ⅱ期)		若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0		
帰国子女(Ⅰ期)		若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0		
帰国子女(Ⅱ期)		若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0		
海外協定校外国人留学生(天津)		若干名	6	6	5	5	2	3	60.0%	若干名	11	11	10	90.9%		
海外協定校外国人留学生(大連)		若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0		
海外協定校外国人留学生(青島)		若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	1	1	1	100.0%		
日本語学校協定校(Ⅰ期)		若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0		
日本語学校協定校(Ⅱ期)	若干名	1	1	1	1	1	1	100.0%	若干名	0	0	0	0			
	【小計】	若干名	13	13	10	10	2	8	80.0%	若干名	19	18	14	77.8%		
	【学部合計】	120	215	215	209	125	9	116	55.5%	96.7%	120	196	193	110	57.0%	91.7%
子ども育成	指定校制	10	7	7	7	7	7	7	100.0%	10	10	10	10	100.0%		
	公募制(専願)	10	20	20	17	17	17	17	100.0%	10	17	13	13	100.0%		
	公募制(併願)	4	9	9	7	4	4	4	57.1%	4	6	6	5	83.3%		
	公募制(市町村連携型)	若干名	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—	—	—		
		【小計】	24	36	36	31	28	0	28	90.3%	24	33	29	28	96.6%	
	一般・特別奨学・センター	一般入試(前期)	25	78	78	40	30	3	27	67.5%	25	73	47	33	70.2%	
		特別奨学生選抜入試(前期)から一般入試(前期)合格				15	14	2	12	80.0%			18	14	77.8%	
		一般入試(後期)	5	4	3	2	2	2	2	100.0%	5	7	1	1	100.0%	
		特別奨学生選抜入試(後期)から一般入試(後期)合格				2	0	0	0	0.0%			3	0	0.0%	
		特別奨学生選抜入試(前期)	若干名	26	26	8	8	1	7	87.5%	若干名	27	7	2	28.6%	
		特別奨学生選抜入試(後期)	若干名	5	5	2	2	2	2	100.0%	若干名	4	1	1	100.0%	
		センター試験利用型(前期)	20	102	102	69	17	3	14	20.3%	20	88	73	18	21.9%	
		センター試験利用型(中期)	4	6	6	2	0	0	0	0.0%	4	13	6	4	66.7%	
センター試験利用型(後期)		2	3	3	3	2	2	2	66.7%	2	2	2	1	50.0%		
	【小計】	56	224	223	143	75	9	66	46.2%	56	214	158	72	45.6%		
特別	社会人(Ⅰ期)	若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	0	0	0	0		
	社会人(Ⅱ期)(H27試験廃止)	—	—	—	—	—	—	—	—	若干名	1	1	1	100.0%		
	【小計】	若干名	0	0	0	0	0	0	0	若干名	1	1	1	100.0%		
	【学部合計】	80	260	259	174	103	9	94	54.0%	117.5%	80	248	188	101	53.7%	126.3%
	【総計】	200	475	474	383	228	18	210	54.8%	105.0%	200	444	381	211	55.4%	105.5%
【三年次 編入学試験】																
学部	種別	平成27年度入学試験							平成26年度入学試験							
現代社会	編入学	一般公募制	1	1	0	0	0	0	0	1	1	1	1	100.0%		
		一般公募制(富山短期大学)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	100.0%		
		一般公募制(外国人留学生)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0.0%		
		協定校(2+2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		秋季入試 協定校(2+2)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	2	100.0%		
		【学部合計】	5	1	1	0	0	0	0	0	5	5	5	2	40.0%	40.0%
子ども育成	編入学	一般公募制	5	2	2	1	1	0	1	100.0%	5	2	2	2	100.0%	
		一般公募制(富山短期大学)	6	6	5	5	5	5	5	100.0%	5	2	2	2	100.0%	
		【学部合計】	5	8	8	6	6	0	6	100.0%	120.0%	5	4	4	4	100.0%
	【総計】	5	9	9	6	6	0	6	100.0%	120.0%	10	9	9	6	66.7%	60.0%

(2) 入試制度の変更

平成 27 年度入試は、試験種別において、現代社会学部では、推薦入試Ⅱ期を導入、AO入試(Ⅲ期)を廃止、一般入試(専門・総合学科)を廃止、子ども育成学部では、推薦入試公募制(市町村連携型)を導入、特別入試社会人入試Ⅱ期を廃止した。

1. 推薦入試

(1) 入試種別について

①現代社会学部「公募制一般型(専願)Ⅱ期」(若干名)、「公募制諸活動型(専願)Ⅱ期」(若干名)を12月に実施

(2) 募集定員について

(現代社会学部)

①「公募制一般型(専願)」の募集定員を「5名」から「10名」に変更

②「公募制一般型(併願)」の募集定員を「10名」から「5名」に変更

③「公募制一般型(専願)Ⅱ期」の募集定員を「若干名」募集

④「公募制諸活動型(専願)」の募集定員を「若干名」募集

(子ども育成学部)

①「公募制市町村型(専願)」の募集定員を「若干名」募集(志願者がなかった。)

(3) 選考方法について

(現代社会学部)

①「公募制一般型(専願)Ⅱ期」で「小論文(テーマ形式)、面接、書類審査」を実施

②「公募制諸活動型(専願)Ⅱ期」で「小論文(テーマ形式)、面接、書類審査」を実施

(4) 書類審査の配点について

(子ども育成学部)

①「全推薦入試」で「45点満点」を「70点満点」に変更。このことにより出席評価が上がり、基本的な生活習慣をより効果的に把握した選抜ができるようになった。

2. 一般入試・特別奨学生選抜入試

(1) 書類審査の配点について

(子ども育成学部)

①一般入試・特別奨学生選抜入試(前期・後期)で「25点満点」を「40点満点」に変更。高校生活の学習活動、部活動、基本的な生活習慣をより効果的に把握した選抜ができるようになった。

(3) 入試対策拡大会議

入学試験合否判定案を審議する会議として、学長、学部長、学務部長、事務部長、入試対策委員、入試広報課員で構成され、計7回実施した。

(4) 入試の管理・運営

本学の入試は、①入試問題作成、②試験実施、③採点、④合否判定資料作成、⑤合否判定資料念査、⑥学部連絡調整会議、⑦入試対策拡大会議、⑧教授会、⑨運営会議の順で試験を管理・運営している。平成28年度入試からは、規定改正により⑦教授会、⑧入試対策拡大会議、⑨運営会議の順となる。

2. 課題

(1) 2018年問題への対応

全国でも18歳人口の流出県である富山県において、18歳人口の減少が始まる2018年問題(富山県においては2020年より減少)を前に、地元富山県からの出願者を増加させる必要がある。

大学全体で見ると平成 23 年度以降、県内の志願者数が増加しているが、現代社会学部は隔年で増減を繰り返しており、子ども育成学部の増加が主な理由である。これは子ども育成学部の小学校教員採用実績、社会福祉士試験合格実績によるものである。出口実績により、県内の進学動向が変化したことが窺える。出口実績が受験生に与える影響は大きく、今後両学部共に評価される実績を積んでいく必要がある。

(2) 県内高校への対応

県内の動向としては、近年少なかった呉西地区の受験生が両学部ともに年々微増している。

現代社会学部は、呉東地区からの出願者数が多いが、距離が遠いから呉西地区は少ないと結論づけるのではなく、通学距離が遠くても、県内で一人暮らしをしようとも、なりたい自分を実現させるために学びたい学部が東黒牧キャンパスにあると言われる学部になる必要がある。

子ども育成学部は、呉東呉西地区の中間に位置する呉羽キャンパスにあり、出口実績を継続していくことで呉東地区の出願者数と同比率の出願者数を呉西地区から獲得できるようにしなければならない。

(3) 入試の管理・運営について

入試の管理・運営について、効率的な入試業務スケジュールを行う一方で、ミスのない正確な入試業務を実行できるスケジュールを設定し、採点や合否判定資料などの念査機能体制の確立と念査方法の見直しを行った。

4. 大学入試センター試験

1. 実績と現状

大学入試センター試験は、富山国際大学と富山短期大学が共同で実施しており、富山国際大学試験場として270名の受験生を受け入れている。呉羽キャンパス試験場で2年目の実施となった。

試験当日の公共交通機関について、JRについては西日本旅客鉄道富山地域鉄道部、路線バス及び臨時バスの運行については、富山地方鉄道自動車部運行管理課に協力を依頼した。

除雪について、富山県土木部道路課、富山県富山土木センター施設管理課、富山市役所建設部道路河川管理課に県道及び市道の除雪の協力を依頼するとともに、呉羽キャンパスの冬期除雪を委託している近藤建設株式会社にキャンパス内の除雪を依頼した。

試験場の警備については、富山西警察署（交通課、警備課）に協力を依頼した。

呉羽キャンパスのある願海寺・野々上地区の住民の方には、事前に自治会会長を通じて呉羽キャンパスで大学入試センター試験を実施する旨を伝え、試験当日の受験生送迎に係る車の渋滞に理解を求めた。

試験実施前には、試験監督者説明会（H26.12.15（月））、事務職員説明会（H27.1.13（火）-14（水））、リスニング演習（H27.1.5（月））を行った。

2. 課題

試験前日、試験当日に校内の除雪、試験終了後の送迎車によるキャンパス周辺の渋滞など、近隣住民に理解を求めるなどの事前調整が必要である。

平成27年度大学入試センター試験では、高等学校学習指導要領の移行年度であったが、試験場のグループ化により新教育課程履修者と旧教育課程履修者を分けることができ、混乱もなく運営することができた。

試験監督者及び事務職員に事前説明会等を実施しているが、業務内容の周知徹底が必要である。

試験監督者は、受験生を不安にさせないように十分に要項を読み込む必要がある。

平成28年度大学入試センターでは、平成27年3月に開業した北陸新幹線の騒音がどの程度受験生に影響を与えるか問題である。

また、センター試験業務は、年間を通して膨大な業務があるが、全体を把握している職員は少なく、今後若手職員の育成を進めていかなければならない。